

67. 和服の寸法に関する研究 (第1報)

——和服寸法の文献的考察及び衿丈の研究——

山脇学園短大 松木 葭子

1. 現在の青年女子は急速に体位の向上を来たしている。従って和服の製作にあたって、従来の和服の標準寸法では種々不適當な箇所があることを常々痛感する。そこで私は、和服寸法を文献的に調べ、考察し、今回はその中の一項目である衿丈について研究を進めた。衿丈は反物の巾関係の寸法であるにも拘らず、人体の縦関係の寸法と関係が深い。そこで、市販の反物巾と女子大生の衿丈との関係を検討し、果して現在の反物巾で青年女子の必要衿丈が満足に製作できるかどうかを研究した。

2. 和服寸法の文献的考察

(1)明治5年から現代に至るまでの大裁女物単衣長着について、身丈ほか15項目について調査し、考察した。

(2)その結果、殆ど変化のない項目は、袖巾・肩巾・身丈・衿丈・衿肩明・後巾・前巾・衽巾・合襖巾・衽下り・衿巾であり、概して反物の巾に関した寸法である。変化のある項目は、袖丈・袖口・袖附・身八ッ口・衿下りであり、反物の長さに関した寸法であることが判明した。

3. 衿丈の研究

(1)女子大生を対象として、衿丈を測定した。次に市販の反物の巾を測定し、両者の関係を検討した。

(2)その結果、現在市販の反物では、その最大巾のもので女子大生の34%、平均巾のもので女子大生の50%、最小巾のもので女子大生の75%が、必要衿丈が製作できないことが実証された。